

今回は…【日本古代のみやこ】に関する図書をご紹介します。

「みやこ」とは天皇のいる場所を指しますが、古来天皇は居所（「宮」）を代替わりごとに変えていたようです。しかし、藤原京（694）が建設されると、即位しても宮を変えず、その周りに碁盤の目状の都市（「京」）を築き、官人や貴族を住まわせる方式が定着します。そして平安遷都（794）ののちには京を移すこともなくなり、天皇の居所が千年ものあいだ山城の地にとどまりました。

参考文献：佐藤信“はじめに”『古代史講義 宮都篇』（佐藤信編、筑摩書房）p.10

◆『長岡京の歴史考古学的研究』（國下多美樹/著 吉川弘文館）

請求記号 L/210.36/ク

遷都の理由から、宅地利用など街の具体的な様子、出土した土器、桓武朝の性格まで、考古学の観点から長岡京について幅広く検討しています。

「長岡京関係年表」、「長岡宮・京跡発掘調査略史」もついています。



◆『シリーズ日本古代史⑤ 平安京遷都』（川尻秋生/著 岩波書店）

請求記号 L/210.36/カ

8世紀後半の長岡京・平安京の建都から、我々のイメージする「千年のみやこ平安京」が成熟する10世紀後半にかけての歴史をやさしく書かれています。平安京という場所で、いかに古代文化が変化したのかを知ることができます。

◆『古代の都 なぜ都は動いたのか』（吉村武彦他/編 岩波書店）

請求記号 L/210.3/コ

飛鳥の諸宮から平安京まで、各遺跡の発掘に携わった執筆者陣が最新の研究状況を解説しています。また百済・新羅の都城についての論考も収録しています。



◆『世界都市史事典』（布野修二/編 昭和堂）

請求記号 R/203.6/セ

平安京をはじめとした日本のみやこは、中国の洛陽城などをモデルに作られたと言われています。世界の都市を見渡すことで、日本古代のみやこの特質や、日本と海外とのつながりが見えてくるでしょう。



この他にも、関連する図書を所蔵しています。
京都コーナーには【平安京関連図書コーナー】もあります。
貸出・閲覧や、調べもののお手伝いをご希望の方は、
中央図書館 2階・参考図書室へお越しください。

